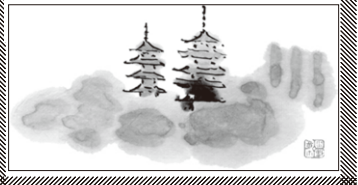


特定非営利活動法人 認知症予防ネット通信



「新たな日常」コロナ禍で思うこと

理事長 平田 研一

今年度の総会は、6月20日、コロナ禍において書面決議というやや変則的ではありましたがNPO法に則って開催し、全議案承認いただき無事終えることができました。議案は、事前に会員の皆様へお送りしましたが、この通信51号で初めて知る方も多いと思います。事業は従来の活動を踏襲してはいますが、総会を機に高林實結樹名誉理事長と原悦子理事が退任され、新たに横川ひとみさんが理事に選任されました。退任された高林さんは当法人の設立者であり、今日まで存続できているのは、高林さんの有り余る

から多額の助成金(80万円)を受けたことで実現しました。

情熱(執念?)の賜物です。また、原さんには、当法人の広報誌「通信」の編集・発行を長年担当していただきました。今のスタイルになったのは原さんのご尽力の結果です。長年に亘り当法人を支えてこられたお二人に心から敬意を表します。2019年度は、長年の懸案であったホームページ(HP)の刷新と「みんなの認知症予防ゲーム」の動画をアップすることができました。(ごなたでも自由に閲覧可能です。)

今年の8月にはゲームリーダーのための「テキスト」も発刊します。これらは、宇治市福祉サービス公社

- ① 世界はつながっている
↓世界中にウイルスが蔓延。
- ② 手はよく洗うべき
↓石鹸で死滅する細菌やウイルスもある。
- ③ データに従うべき

51号

2020年8月10日

編集・発行

NPO法人
認知症予防ネット
〒611-0002
京都府宇治市木幡
南山15-200

電話
080-3851-8199
Fax
0774-33-8199

Email
n.yobo.200409@gmail.com
ホームページ
https://www.n-yobo.net/

↓今何が起きているのかを理解することができ。

- ④ 社会的距離確保の困難
↓互いに触れ合うことがいかに素敵なことか再認識。
- ⑤ 備えることの重要性を実感。

新型コロナウイルスの感染を防ぐための予防法や万が一感染してしまっ

た場合の対処法、近隣における感染者数の有無など様々な情報を皆さまも集めておられると思います。しかし、毎日のようにアップデートされる情報社会ではメディアなどによって報じられる情報の量とスピードに脳の処理が追いつかず、その結果さまざまストレスを感じておられる方も多いのではないのでしょうか。

たとえば、私たちが1日当たりにインプットする情報の量は、江戸時代に生きた人の1年分、平安時代に生きた人の1生分と言われるとおり、いかに多くの情報を受け取っているかが分かります。

この「情報の洪水」から身を守る必要もあります。情報が洪水のように押し寄せてくる現代社会、自己防衛のためにも、情報をどう選ぶかという明確な基準を持つことが大切です。

情報源を選ぶポイント
は、①自分にとって最も信頼できる情報源、②①と合わせて確認する情報源、③①と真逆の情報源を発信している情報源、の三段階です。人間には、自分が信じたい情報だけを集めたい「確認バイアス」という心理効果が働

きます。そこで最も信頼できる情報源だけでなく、真逆の意見を発信している情報源も併せて抑えておくことで、情報のバランスを保つことができます。

最後に、第二波到来(7月末現在)で活動再開に向け見直しは立たなくなっています。すが、ありがたいことに問い合わせも増えていきます。再開に際しては、当法人のHP掲載の「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」に沿って実施いたします。いづれにしても、もうしばらくの辛抱です。



感謝

名誉理事長 高林實結樹

今年の総会で、私は理事長も理事も引退させて頂き、佐々木理事と中村副理事長のお陰で、新たなテキストも出版目前までできていまして、有り難い事です。

思い返しますと、私が病院の事務員であった若いときに、看護師さん達の勉強会に使われる雑誌を横から見たのが認知症予防を考えるキッカケでした。

挿絵写真では、外出姿の女性がカーディガンを裏返しに着て、肩パッドが天に向かって立ち上がって居るのでした。本格的な認知症発症者を、楽しいゲームで改善させた、増田方式の報告記事でした。発症者用の合宿教室と、MCレベル用の、週一回の通所教室とが行われていたのです。

教室の開始時と終了時のテストの上昇点数も発表されていました。でも私には、テストを行う資格は無く、協力者も見つ

からない等で、何も動けませんでした。何しろ私は同居の母が認知症で、当時は医療も福祉も「痴呆症」は締め出し時代であり、介護殺人直前までを味わった本人なのでから。

NPO法人を立ち上げたのは、やっと平成十六年の秋でした。

活動初期に声を掛けた人の多くは反論されました。一例をあげますと、「医者には科学者ですから」。それならば科学的エビデンスで医学的に証明して下さいよ、と言いたい言葉を呑み込んで、辛抱辛抱でした。

認知症を病んでいる本人や介護家族に、私も一緒よ、と思いながら、たかがゲームと言われても事実として予防教室の利用者さんが、医師の簡易テストでパフォーマンスに答えられて医師が驚かれる、暗かった表情が明るく変わられる等の事実を見て、前進しました。

「めでたさは上々最高おらが春」です。今ではNPO法人の認定講師の方が、ご自分の地域でリーダー養成講座を開始され、全国的にリー

ダーさんが増えていきます。この勢いを止めることはもう不可能でしょう。

同志の皆さんが自信を持って活動されている……！『これこそがまさに正夢おらが春』です。

感謝



理事退任にあたって

前理事 原悦子

認知症予防に関心を持ったのは、母のためでした。

「高齢社会をよくする女性の会」を通じて高林名誉理事長を知り、2005年講演を聴いた後、宇治市大久保のサティのカルチャーセンターへ参加。その後2007年10月からホテルで教室を2008年まで開催。このことは通信一―号2008年2月号に掲載いただいています。その間2007年十一月から京都市金光墨染会館でNPO健生ネットワーク主催のリー

ダー養成講座を開催し、その修了生をリーダーとして迎え、2008年四月「スズメの学校」を開催。通信二―号2011年にスズメの学校140回目として紹介頂いています。

そして2015年七月、前任者の都合で通信33号を編集し、編集後記にEHと頭文字を入れしました。編集をそのまま引き受けるつもりはなかったのです。2015年十一月34号の「編集室より」は前任者、そしてかなり期間があいて、2016年四月十日付けが紙面上欄についていない35号から私の担当になったのです。

編集後記を書かずに事務局になったり、安心パツジ担当になったり、カメラマンになったりでしたが、苦情或いは提案として当初に、紙面の挿絵が花などの柔らかい感じがないと言うことを伝えお聞きしましたが、精一杯で、花を選ぶ余裕がないまま、50号まで来てしまいました。この度理事退任を目前に平田理事長が編集を担当いただくことになり、NPO法人認

知症予防ネットの充実と発展に役立つ通信を発信して下さることに楽しみにしております。

はじめまして

新理事 横川ひとみ

この度理事になりました横川です。宇治の地に嫁いで早くも半世紀を迎えようとしています。

（歳わかりますね・・・）

みんなの認知症予防ゲームとの出会いは、退職後公民館に勤務している時高齢者の方に活用できそうだという思いで、青い鳥二十一期生として受講しました。その後5年くらいは、呼ばれるままにいろいろな集まりに出かけてはゲームを楽しんでいたっていました。また、同じ時期に講座を受講したメンバーが集まり、神明で地域の方とゲームを楽しんでいます。

ある時高林先生から、「あちこち行っているのなら、NPOとして活動してはどうでしょうか？」と言われ所属することになりました。運営委員会に参加させていただき、多くの方が様々な場所で

活動をされていることに驚きました。私も教室をもたせていただき楽しく活動をしているところで

このゲームは、参加者もゲームリーダーも元氣になれる不思議な力があります。難しいことを考えるのは苦手な私です。で、これからもゲームを楽しみながら活動を継続していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願います。



リーダー養成講座を開講して
副理事長 中村都子

新型コロナウイルスの第二波到来かと日々、一喜一憂している中で、大きな決断と共に「リーダー養成講座」を開催しました。

KBS京都の講座予定が7月25日・26日となっていました。その数日前に京都府内の感染者は二十七名という記録的な人数が報じられ、「開催すべきか?!」今回も先にスライドすべきか?!と心底、考え込んでいました。

というのも、今回の受講生様三名は、全員が高齢者施設の職員の方々。開催する側も受ける側も双方共に、気を遣いますね。

結局、担当者様から「万全の策を講じますので、是非!」との心強い言葉と、受講生様の「春から開講を待っています。今回は絶対に受けたい!」とのお声を受け、新型コロナを正しく恐れながらもやってみようと一歩踏み出しました。

KBS京都さんでは、

会館入り口での体温測定、至る所に設置されている消毒液、部屋はエアコン始動で窓とドアは常時開放、簡易ながらも衝立式の透明スクリーンも用意してくださっていました。こちらでも法人の感染拡大予防のガイドラインを受講生様にお配りし、ご理解を頂きました。

講座は、通常は二日間十三時間のカリキュラムのところ、今回は十時間の短縮濃縮講座で。受講生様3名と見学参加の認定講師の方1名と私の計5名が、ソーシャルディスタンスを常に意識しながら進め、昼食も2メートル以上離れて、話もせず静かにサツと済ませました(笑)

「ゲームその1」は、勢いづいて声が大きくなり、反省です。「ゲームその2」は、エアタッチで行いました。「追っかけ将棋」は、4名が離れて座った机の上にそれぞれ将棋盤を一面ずつ置き、自分だけの「金」の駒四個と「歩」一個でスタートし、順番に自分の「金」の駒を振って駒を進めてみました。向き合わなくても結構な盛り上がり。二日間殆ど机の前での

講座でしたので、皆様、即座に熱心にメモを取ってくださったのが印象的でした。

前回の養成講座から六ヵ月。私自身が、まず「自己紹介」で混乱して、活動休業のリスクと自分の未熟さを感じました。

一応終了しましたが、二週間後にクラスター発生とならないことを信じています。受講生の皆様、永田芳江様、ありがとうございました。



KBSカルチャー

講師：中村 都子(くにこ) NPO法人認知症予防ネット
介護福祉士・介護支援専門員、認知症予防専門士
開講日：2020年9月26日(土)・27日(日)
曜日・時間：2日とも10:00~16:30 (お昼休み1時間あり)
受講料：12,000円(2日分、税別) 教材費：1,200円(税別)
備考：2日間受講された方には修了証を授与させていただきます。
予約や詳しいことはお電話でお問合せください。

講座の問合せ先

KBSカルチャー

電話：075-441-4161



ソーシャルディスタンス



昨年の様子



2020年度総会報告

議案 第1号 2019年度事業報告

1. 認知症予防の啓発・広報事業

- ・当法人紹介のリーフレット（A4判裏表印刷の三つ折り）を作成し、各地で活動しているリーダーの広報資料に活用して頂いた。
- ・「NPO法人認知症予防ネット通信」の発行は、新型コロナの影響で48号から50号までの年3回の発行となった。
- ・長年懸案となっていたテキストの改訂については、宇治市福祉サービス公社の事業助成金を活用して、新刊のテキストとして発刊することになった。年度内の発刊には至らなかったが、2020年8月には発刊の予定。
- ・広報活動は、昨年度に引き続き他団体のイベントへの毎年参加の内、地元宇治市内での2箇所（社協福祉まつり、宇治市あさぎりフェスタ）が不参加となった。
- ・当法人の活動は、各地で確実に評価され、結果として継続的に講師依頼が来るようになった。特に、地元である宇治市をはじめ京都府下においても「みんなの認知症予防ゲーム」の紹介・広報活動を地道に展開した。

2. 提言活動

- ・在日の韓国系の施設、「社福・心の家族故郷の家・京都」への訪問教室（毎月3回実施）では、認知症専用デイサービスの難しい状況（ランク2～4）の中で、参加者さんに確実に喜んでいただけるようになり、近隣の地域住民対象の臨時教室に講師派遣の依頼を受けた途端に新型コロナで中止になった。将来的には、関西圏と東京の施設のみならずもっと広範囲の地域に受容される筈と、期待している。
- ・京都認知症総合センターのグループホームへの月一回の訪問でも、参加者さんが楽しみにされるようになってきたところに新型コロナで自粛、閉鎖になった。

3. 講師派遣事業

- ・講演依頼は、年度末の新型コロナ自粛解除を期待して20回の講師派遣を見込。
- ・各地の教室支援へのゲームリーダーの派遣。
- ・各地のゲームリーダー養成講座に、講師を派遣。
- ・その他、ゲーム体験会やカフェ並びにラジオ出演等に講師派遣を行った。

4. 学会関係

- ・10月18日～20日の3日間、名古屋国際会議場で開催された第9回日本認知症予防学会学術集会、一般の部で、神内千恵子氏（認定講師）と加藤良江氏（認定講師）、さらに高林實結樹名誉理事長が発表口演された。
- 又、別室でのカフェ班会議では、2箇所の認知症カフェでのゲームによる改善報告を行った。

5. 自主教室・自主講座の開催

- ・中村都子理事によるKBSカルチャーセンターでのリーダー養成講座の結果、全国広範囲に及ぶ少数精鋭の受講があり、認定講師誕生の下地の役も果たしている。

6. 運営委員会

- ・昨年より、新しいメンバーが加わり、ほぼ定期的に運営委員会を開催することができ、各種イベントへの参加も運営委員が中心となって取り組んでいただいた。

7. 理事会

- ・隔月を基本に理事会（理事5人・監事1名）開催し、当法人の各種事業の検証や実施に向けて具体的な協議を行った。

8. 講師認定審査会

- ・2019年度は、残念ながら新たな認定講師の誕生は無かったが、当NPO法人認定講師16人は、様々な活動を展開中。（東京都1人、新潟県1人、愛知県1人、岐阜県2人、滋賀県4人、京都府2人、和歌山県1人、山口県1人、大分県1人、熊本県1人）

以上

NPO法人認知症予防ネット 会員募集のご案内

当法人の活動は会員の皆さまの会費と寄付によって支えられています。

ご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

正会員 入会金：2,000円、年会費：6,000円

賛助会員 入会金：1,000円、年会費：2,400円

≪郵便振替口座：NPO法人認知症予防ネット 口座番号：00900-1-223642≫



議案 第3号 2020年度事業計画

1. 認知症予防の啓発・広報事業

- ・昨年度同様、ホームページ、ブログ、フェイスブック、通信、チラシ、リーフレット等を活用し、広報活動を行います。
- ・通信は「NPO法人認知症予防ネット通信」として4回発行が根付いたばかりだが、新型コロナの影響もあり今年度は年3回以上の発行を目指します。
- ・2020年度の早い時期にテキスト改訂版を発刊します。
- ・パネル展示・ワークショップ参加等、行政や他団体との協働にも積極的に参画を継続いたします。

2. 提言活動

- ・公私、立場の如何を問わず、本年度も提言活動を地道に諦めることなく、機会を逃がさず継続します。

3. 講師派遣事業

- ・講演依頼、教室支援、ゲームリーダー養成講座、他団体との交流、その他施設の職員研修にも、可能なかぎり対応いたします。

4. 学会関係

- ・新型コロナの影響で、第10回日本認知症予防学会学術集会が延期になりました。（当初予定10/18～20）が、今年度も何らかの形で参加・発表予定です。

5. 自主教室・自主講座の開催

- ・中村副理事長によるKBS京都のカルチャーセンターでのゲームリーダー養成講座は不定期ですが、ほぼ隔月最終土日の2日連続制で継続開講いたします。

6. 理事会

- ・各理事の力をフルに発揮して、組織強化や各種出版物の改定・見直しを行います。また、講師認定制度、全国リーダー交流会などの充実に努めます。

7. ゲームの昇華

- ・昨年度「みんなの認知症予防ゲーム」の各ゲームの名称統一を行いました。各地のリーダーへの周知が不十分であったことを反省に、新たに当法人HP上にアップした「ゲーム（実演）動画」を活用して周知を図ります。
- ・認知症予防が可能で必要だという理解も未だ不十分なので、理解者が増えるよう根気よく、さらに啓発活動を行います。
- ・ゲームは、現場の状況を参考に、常に改善・改良を繰り返しています。変更点について、タイムリーにゲームリーダーへの周知を図ります。

8. 認定講師資格審査事業

- ・ゲームリーダー養成講師の資格認定審査事業については、一昨年で15名に達しましたが、その後、新型コロナの影響もあって積極的な活動はできていません。
- ・今年度、状況を見極めながらになります。認定講師を増やすよう努めます。
- ・昨年度、認定講師の質の担保のために単位制など様々な仕組みを導入しましたが、新型コロナの影響を鑑み、単位取得期限を1年延長することにします。

9. 全国リーダー研修・交流会

- ・今年度も京都駅に近い西本願寺の閻法会館で11月21日に実施する予定です。

以上

議案 第5号 理事の選任について

1. 任期満了に伴う、理事退任について

高林 實結樹 さん

※昨年贈られた「名誉理事長」の称号は、理事の有無とは関係なく終身について贈られたものです。よって理事退任後も引き続き、名誉理事長と名乗っていただきます。

原 悦子 さん

2. 新理事選任について

横川 ひとみ さん ※理事長より理事に推薦致します。

以上



議案 第2・4号 2019年度事決算及び2020年度予算

収入の部							単位:円
科 目	2019年度予算額	2019年度決算額	対予算比	2020年度予算額	対前年度決算比	備 考	
年 会 費	649,140	721,000	71,860	648,000	-73,000	正会員89名、賛助会員67名、団体1	
入 会 金	35,000	16,000	-19,000	10,000	-6,000	正会員6名、賛助会員3名	
小 計	684,140	737,000	52,860	658,000	-79,000		
事業収入	認知症予防の啓発・広報	20,000	0	-20,000	10,000	10,000	
	教室開催の提言(教室事業費)	10,000	21,500	11,500	10,000	-11,500	
	講師派遣謝礼	1,800,000	1,405,774	-394,226	700,000	-705,774	
	講演会等の開催	100,000	219,680	119,680	100,000	-119,680	全国研修大会
	その他必要な事業	1,200,000	1,002,371	-197,629	600,000	-402,371	教材販売事業
	小 計	3,130,000	2,649,325	-480,675	1,420,000	-1,229,325	
寄付金	50,000	113,800	63,800	50,000	-63,800		
受取助成金		400,000		400,000	0		
小 計	50,000	513,800	463,800	50,000	-63,800		
雑収入	10,000	2,362	-7,638	10,000	7,638		
預金利息	20	21	1	20	1		
小 計	10,020	2,383	-7,637	10,020	7,639		
A. 当期収入合計	3,874,160	3,902,508	28,348	2,138,020	-1,764,488		
前期より繰越金	2,717,940	2,853,059	135,119	2,372,312	-480,747	棚卸資産(288,587)	
B. 収入合計	6,592,100	6,755,567	163,467	4,510,332	-2,245,235		
支出の部							
科 目	2019年度予算額	2019年度決算額	対予算増減	2020年度予算額	対前年度決算増減	備 考	
事業費	人件費	1,300,000	1,130,130	-169,870	600,000	-530,130	
	認知症予防の啓発・広報	300,000	543,810	243,810	1,000,000	456,190	HP・動画、テキスト作成他
	教室開催の提言						
	講師派遣(交通費他)	1,000,000	803,945	-196,055	400,000	-403,945	
	講演会等の開催	100,000	57,190	-42,810	50,000	-7,190	全国研修大会
	その他法人の目的を達成するために必要な事業	1,000,000	905,105	-94,895	600,000	-305,105	通信印刷、発送
	消耗品・雑費	120,000	21,514	-98,486	30,000	8,486	
小 計	3,820,000	3,461,694	-358,306	2,680,000	-781,694		
管理費	人件費	200,000	148,200	-51,800	150,000	1,800	
	外注費(含む事務委託費)	600,000	620,000	20,000	600,000	-20,000	
	通信・運搬費	10,000	112,550	102,550	100,000	-12,550	事務所電話、携帯電話
	消耗品・雑費	12,000	19,625	7,625	12,000	-7,625	
	その他	20,000	21,186	1,186	20,000	-1,186	支払手数料など
小 計	842,000	921,561	79,561	882,000	-39,561		
C. 当期支出合計	4,662,000	4,383,255	-278,745	3,562,000	-821,255		
D. 当期収支差額 (A-C)	-787,840	-480,747	307,093	-1,423,980	-943,233	棚卸資産(288,587)	
次期繰越金	1,930,100	2,372,312	442,212	948,332	-1,423,980		

会計監査報告

2019年度、特定非営利活動法人 認知症予防ネットの会計監査にあたり、収入支出に伴う関係諸帳簿を慎重に監査した結果、いずれも正確かつ適正であることを認めます。

2020年5月17日

特定非営利活動法人 認知症予防ネット 理事長 平田 研一

特定非営利活動法人 認知症予防ネット 監事 木原 由佳里

(会計並びに会計監査の承認印は事務局で保管している原本に押印してありいつでも閲覧可能です。)

「みんなの認知症予防ゲーム」における新型コロナウイルス感染拡大予防 ガイドライン（指針）

（策定：2020年5月30日）

全都道府県における緊急事態宣言が解除され、新しい生活様式に沿いながらですが、少しずつボランティア活動も再開されてきています。しかしながら、まだまだ予断を許さない中、後は、感染予防対策に細心の注意を払いながら、参加者さんに安心して参加していただける場を作り上げていくことが教室運営に不可欠な事柄となりました。

「みんなの認知症予防ゲーム」は、「3密」に加え、参加者さんが殆ど高齢の方々でありますので、以前のような活動内容のままで教室等を行うことは、難しい状況にあります。そこで、NPO 法人認知症予防ネットとして、「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を作成いたしました。全ての教室やサロン、施設等において目安としていただければ幸いです。このコロナ禍の中で、少しでも安全・安心していただける状況で、楽しくゲームや講座を進めていきましょう。

以上

1. ゲームの開始前に

（1）会場・ゲーム道具の準備について

- ・スタッフは全員検温しましょう。（体温計、アルコール綿）
- ・自身の手指消毒後、テーブルや椅子、使用する部屋やトイレのドアノブの消毒を済ませましょう。
- ・当日使用するゲーム道具は、もれなく消毒します。
- ・椅子は、間隔を空けて座っていただくために、何時もより多く用意し、一つおきに使用しましょう。
- ・スタッフはマスクを着けます。リーダーは、フェイスシールドを使用しましょう。
- ・参加者さんの名前・住所・電話番号などを把握しておきましょう（施設においてはこの限りではありません）。
- ・日時を入れた参加者名簿を作成するようにしましょう。

（2）参加者さんに関して

- ・入り口にアルコール消毒剤を用意し、手指消毒をしていただきますよう。
- ・マスクを使用していただきますよう。
- ・検温をしていただき、体調をお伺いしましょう。（体温計、アルコール綿）

2. ゲームでは

- ・円形に椅子を設置する場合、参加者さんには一つおきに座っていただきますよう。
- ・座学式にテーブルや机を使用される時、前後のテーブルの間隔を広く取るか、一つおきに座っていただきますよう。
- ・再開当初は、以前のようにいきなり時間いっぱいを実施せず、時間短縮するなどして、無理のない範囲で行っていただきますよう。
- ・開催中は 30 分おきに 1 度、窓や戸を開けて、5～10分くらい換気をしましょう。
- ・ゲーム中の参加者さんの水分補給は、水筒やペットボトルなど持参していただくことを勧めましょう
- ・施設等に訪問してゲームを行う時は、施設の事前の打ち合わせを行い、施設の方針に従ってゲームを楽しんでいただきますよう。

<ゲームその1>

- ・お隣との間隔を取って座りましょう。
- ・適宜、水分補給をしていただきますよう（マスク使用で熱がこもります）。

<ゲームその2>

- ・椅子に一つおきに座っていただきますよう。
- ・「リズム 2 拍子・3 拍子・4 拍子」では、スキンシップは避け、隣の空いた椅子席にどなたかが座っていらっしゃるとして座席をタッチするなど、工夫しましょう。
- ・適宜、水分補給をしていただきますよう（マスク使用で熱がこもります）。
- ・「お手玉回し」「ドジョウさん」は、治療薬が開発され使用できるようになるまで止めておきましょう。

<ゲームその3>

- ・「ことば集め」「手作りビンゴ」で、二人で行ったりグループで行ったりする場合は、対面にならないよう、出来るだけ横並びで行いましょう。
- ・「広告パズル」は、前後左右の間隔を取って座りましょう。広告をお隣さんと交換はしないで、裏と表で2回行って楽しむなどの工夫をしましょう。
- ・「追っかけ将棋」は、治療薬が開発され使用できるようになるまで止めておきましょう。
- ・適宜、水分補給をしていただきますよう（マスク使用で熱がこもります）。

（次ページへ続く）

（前ページから続く）

<ゲームその4>

- ・「二種類の太鼓の合奏」「風船バレー」では、隣の方との間隔を十分に取ります。
- ・「ビーチボールサッカー」「シート玉入れ」「じゃんけんリボン」は、治療薬が開発され使用できるようになるまで止めておきましょう。
- ・適宜、水分補給をしていただきます（マスク使用で熱がこもります）。

3. ゲームの終わりには

- ・茶話会の準備をする時は、スタッフは必ず手指消毒してから始めます。
- ・ゲームが終わったら、消毒または手洗いをいただきます。
- ・テーブル、お盆なども消毒しましょう。
- ・茶話会でも、間隔を空けて座っていただきます。
- ・教室の換気をしましょう。
- ・教室の出口でお見送りする際は距離を取り、ハグや握手はしないようにしましょう。

『 養成講座を行う時 』

- ・会場の広さと募集人数が大事です。一人当たりのスペースを十分確保できる会場にし、机や椅子等の備品も余裕のある数にします。
 - ・講師はマスク、フェイスシールド着用。受講生もマスク必携にいただきます。
 - ・体温計、アルコール綿、消毒液を用意します。
 - ・使用するゲーム道具は、事前に消毒しておきましょう。
 - ・水分補給は各自でペットボトルなどを用意していただきます。
 - ・30分に一度くらいの換気をしましょう。
 - ・治療薬が開発され使用できるようになるまでは、「お手玉回し」「ドジョウさん」「追っかけ将棋」「ビーチボールサッカー」「シート玉入れ」「じゃんけんリボン」は、行わないことを確認しましょう。
- テキストを使用し、丁寧に講義・説明しましょう。
- ・終講後、リーダーが活動を始める際には、感染症対策を行い、安全に安心して行っただけの配慮について伝えましょう。
 - ・今までと違う状況下であっても、認知症の先送りや引き戻しの期待効果に沿ったゲーム進行を常に考えて、受講生にお伝えしていくことが大事です。
- 以上

貸借対照表

活動計算書と財産目録はHPをご確認ください。

感染を防ぎ、新たな日常を
生きるために

- 1 密集・密接・密室を避ける
- 2 安全な距離を保つ
- 3 こまめに手を洗う
- 4 室内換気と咳エチケット

2019（平成31）年度 貸借対照表			
科目	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	0		
預金	1,916,273		
仮払金	0		
前払金	0		
商品	0		
流動資産合計		1,916,273	
2 固定資産			
什器備品	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,916,273
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	0		
仮受金	0		
前受金	118,600		
未払金	251,160		
流動負債合計		369,760	
負債合計			369,760
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,356,546	
当期正味財産増加額		-480,674	
正味財産合計			1,875,872
負債及び正味財産合計			2,245,632

安心バッジ

7月20日、認知症の行方不明者についてかなりショッキングな報道が警察庁からありました。

昨年1年間に警察に届け出があった認知症の行方不明者は延べ1万6927人。前年より1064人多く、統計を取り始めた2012年以降6年連続増加しています。行方不明者全体に占める割合は19.2%と7年間で最大。徘徊中に事故やトラブルに巻き込まれる恐れがあり、なかには命を落とすこともありま

100万人の胸に 四つ葉の クローバーを



問合せは事務局へ

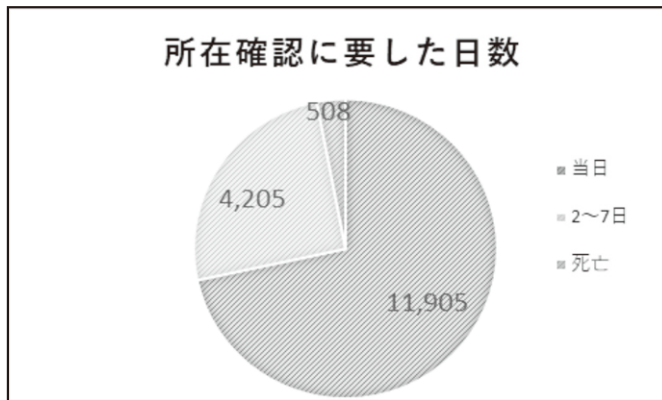
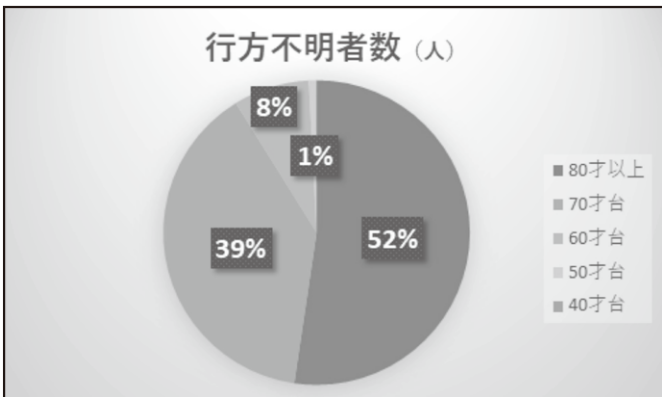
す。どこかで迷っていないか、倒れていないか、と案ずる家族の心労は察するに余りありません。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、2020年は女性の過半数が50歳以上、2024年には6人に1人が七五歳以上「超・高齢者大国」となります。内閣府の高齢社会白書によれば、2025年の六五歳以上の認知症患者は730万人（5人に1人）、2060年には1154万人（3人に1人）、私達が目指しているのはこの数を減らすことであり、認知症になっても住み慣れた家（地域）で暮らし

続けたいと考えている人へ、「地域ぐるみで見守る仕組み（態勢）づくり」

の一助となるよう「安心バッジ」の普及活動を続けることです。

認知症を原因とする身元不明の方が一人でも助かれればと考えたのが『安心バッジ』です。
直径3.7cmのオレンジ色の缶バッジの中央に四つ葉のクローバーを描き、周囲にローマ字で「NAMAE（なまえ）」、「DENWA（でんわ）」、「URAGAWA（うらがわ）」と書いています。
バッジの裏側に、名前と電話番号を直接書き込んでもいいですし、記入できるシールも付いています。
街角で、あるいは人通りの少ない場所で困っている人が、この安心バッ



ジをつけていたら、迷わずお声がけください。このバッジは認知症専用ではなく、ご自身が不測の事態で身元不明にならないために、老いも若きも多くの方に活用していただきたいと思えます。バッグやポケットの中に入れておくだけで、ご自身と関係者の皆様に安心を与えます。
出来ればこのバッジを目立つところに付けていただき、市民の共助・共生のシンボルとして役立ててほしいと切に願います。（一個100円）

